

## ザファール・タジ研究員（パキスタン）



パキスタンから来ましたザファール・タジと申します。私の出身は極北、北部地域の美しい渓谷地域で、世界最高峰が連なる三つの山脈、ヒマラヤ山脈、カラコルム山脈、ヒンドゥークシ山脈の合流点に位置しており、北極圏に次いで多くの氷河が存在しています。カラコルム山脈だけでも世界第2位のK2（8,612メートル）を始めとして、7,500メートル以上の山々が30座あり、切り立った岩壁や深い峡谷が垂直にそびえ立ち、壮大な景観を成しています。

私の役職は北部地域総務局の副局長ですが、当地の地域災害管理局の副局長にも任命されており、災害発生前、発生後の防災計画の実施、州・地域間、地域の関連部局、NGOとの調整を担当しています。現在、地域災害管理局では当地での初期段階の活動として、法制度、インフラ整備に取り組んでいます。

ほかの南アジア諸国同様、パキスタン、そして北部地域でも自然災害、人的災害が頻発しており、人々の生命及び生活を脅かしています。中でも洪水、干ばつ、地震、疫病、輸送事故、火災等は、わが国で多発する災害です。北部地域（州都ギルギット）は地震帯上に位置するため地震が多く、また干ばつ、地すべり、雪崩、洪水、鉄砲水などがよく起こる災害として挙げられます。

パキスタンでは2005年まで災害は、伝統的・慣習的な手法で対処されてきました。しかし、2005年10月8日、北西辺境州、アザド・ジャム・カシミール州、イスラマバードで約7万3,000人が犠牲となった大規模地震が契機となり、政府・政策決定機関は、予期せぬ緊急事態に対応するために、改めて総合的、近代的メカニズムを導入する必要性を認識しました。これまでに地震復旧・復興庁（ERRA）及び国家災害管理局（NDMA）の設立、建築基準法の導入等が行われてきました。防災に関する取り組みは、災害管理の初期段階にあるパキスタンにとって新しい分野です。ここで、私が災害に関する知識、情報、理解を必ず深めることになるであろう、本研究プログラムへの参加機会を与えてくださったADRC、そして日本政府に対して厚くお礼申し上げます。災害発生前・発生後の防災戦略の調査、フィールド訪問等多岐にわたる本プログラムへの参加を通じて、NDMAにおける優良事例実践に向けた取り組みが強化されるものと確信しています。